

えぬびい! Oh!

2015 冬
Vol. 61



▶2P~3P

次世代へ受け継がれる こどもが運営するまちとさっ子タウン
~経験者へのインタビューから~

▶4P~5P

“高知街ラ・ラ・ラ音楽祭”

音楽からなかまづくり、まちづくりへ

▶6P

地域と共に、文化の協奏曲を作り上げる
~NPO 法人音の文化振興会のコラボカ~

▶7P

お年寄りに笑顔と感動を届けて600公演
NPO 法人 唄と踊りの夢一座

次世代へ受け継がれる こどもが運営するまち「とさっこタウン」

～経験者へのインタビューから～

ワクワクするね ドキドキするね まちをつくるって楽しいね♪…流れるテーマソング、こどもたちの歓声。

高知市文化プラザかるぼーとで、8月22日(土)・23日(日)の2日間、小学4年生から中学3年生までのこどもたち385名がこども市民として参加し、こどもが運営するまち「とさっこタウン2015」が開催された。

この事業は、毎年多くの専門家・ボランティアスタッフ(以下「スタッフ」)の協力を得て開催されているが、今年は新たに高知県薬剤師会などが加わり、80を超える団体や個人から協賛・協力を得た。

高知市市民活動サポートセンターとNPO高知市民会議(以下「市民会議」)の創設10周年を記念して始まったとさっこタウン(以下「この事業」)は、今回で7年度目。「お試し」開催を含めると8回)

本誌では、これまで様々な切り口でこの事業を取り上げてきたが、今回は運営に関わる3名の若者へのインタビューを通して人材育成事業としての観点から書いてみたい。



市民からスタッフへ

スタッフとして漫画家ブースを担当してくれた土佐女子高校1年生の溝淵由希(ゆき)さんは、「お試し」から市民として参加し続け、今回初めてスタッフとして参加してくれた。



▲漫画家ブースでイラストを描く溝淵さん

①スタッフに参加した理由は?「昨今まで

市民として参加し、とても楽しかった。市民を卒業してもスタッフとして関わりたいと思った」②市民との違いは?「市民のときに働いた漫画家をサポートしているので感覚的にはあまり変わらない」③今後のこの事業はどうなって欲しい?「市民がもっと計画段階からかわられるようになれば良い。イメージキャラクターのしばてんを漫画家ブースでデザインさせて欲しい」



スタッフから事務局担当へ

尾崎昭仁(あきひと)さんは、市民会議に就職して3年、この事業を始め土佐志民大学など市民会議の多くの事業を担当。皆からの信頼厚い若手職員。第1回目に高校生スタッフとして参加したのを機に、短大時代は実行委員として活躍し、社会人となった後、縁あって市民会議の職員となった。



▲準備日に誕生日をスタッフから祝ってもらう尾崎さん

①実行委員としての経験が仕事で役立っていることは?「ワクワク感を持つことや楽しみながらものごとに向き合う姿勢が良かった。実行委員会の会議ではそういった姿勢の大人や若者が多くいるので」②スタッフとの違いは?「こどもたちのことだけでなく、スタッフのことも考えている点。事務局は裏方として、スタッフがより良い活動ができるよう支えることが仕事だと

思っている」③今後のこの事業はどうなって欲しい?「10年20年と継続してほしい。様々な企業や団体、個人に協力いただきながら広がり、こどもたちやスタッフの世代交代が生まれ、社会の担い手が育ってくれることを期待している。そして、市民やスタッフ、実行委員の経験者が、親となり、わが子をとさっこタウンに送り出す。そんな流れができれば最高」



実行委員から行政職員へ

この事業は、市民会議の事業であるとともに高知市が委託した市民活動サポートセンターの事業でもある。その委託元である高知市地域コミュニケーション推進課に就職した岡村沙和(さわ)さん。第2回目に高校生スタッフとして参加し、大学時代4年間を通じて現在まで実行委員として参加し続けている。



▲とさっこタウンのキャラクター「しばてん」に扮する岡村さん(左)

①社会人になって、実行委員としての経験が役に立っていることは?「高校卒業した頃の頃から毎回のよう社会人と対等に議論していたので、世代の違う人と話すことに物怖じしなくなっただけのこと(笑)。ファシリテーションを学び1対1のコミュニケーションでも役立つことが分かった」②行政の目から見たこの事業は?「行政・民間企業・大学生高校生・学校・NPOなど様々な組織や団体がお互いの得意分野を生かして協力し合う、いい形での協働事業だと思う」③今後のこの事業はどうなって欲しい?「今年のスタッ

毎年のように県外大学生が当日スタッフとして参加してくれ、今年は兵庫県武庫川女子大学の学生さんたちが参加してくれた。▶



フは、市民経験者が多く、次世代への世代交代が年々目に見えるようになってきた。この事業をどうしたら良くしていけるか、こどものためになるのかを一生懸命悩み、ケンカし、語り合い、またその次の世代へバトンタッチしていけるような、こどもだけでなく関わる人みんなのステップアップに繋がる事業になって欲しい」

次世代への受け継ぎ

この事業のスタッフは、昨年度あたりから急激に大学生から高校生へとシフトしており、スタッフから実行委員へと移行するものも多く見られるようになってきた。更に、県外で就職した元学生実行委員が社会人になっても駆けつけてくれる姿も見られる。立場が変わってもこの事業に関わり続けてくれる若者は着実に増えている。

とりあえず10年は続けたいと始めたこの事業は、こどもたちだけでなく、高校生や大学生、社会人にも人材育成としての成果を上げ、参加者の役割が変わりながら次世代に受け継がれ、事業拡大を続けている。

尾崎さんも答えてくれたが、20周年を迎える頃には、この事業に関わった若者が親となり、そのこどもたちが市民として参加する時がやってくる。その頃には、事業計画の段階からこどもたちが参画するプロセスが確定し、この事業から生まれた種は、各地で新しいこどものまちな花を咲かせているだろう。自分もそれまでは頑張りたいと思っている。

(森岡)



▲実行委員(オレンジTシャツ)と当日スタッフの集合写真

▼薬局ブースで分包機を使い粉薬の調合を行うこどもたち(高知県薬剤師会協力)



トピックス

9月20日(日)、大橋通り商店街でとさっ子タウンのトス通貨が使えるイベントが写真展とともに開催された。シルバーウィークのアーケードでは、「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2015も開催されており、賑やかな中で、157名のとさっ子市民が買い物を楽しんだ。



▲とさっ子タウンの写真展



▲「トス」と大橋通り商店街イベント通貨を両替して買い物をする「トス通貨が使えるイベント」



ま・あ・る内のとさっ子タウン
ブースでグッズ販売する
兼子副市長(右)

10月11日(日)・12日(祝)
全国こどものまちサミットin 静岡が、静岡市清水区の「こどもクリエイティブタウン ま・あ・る」で開催され、とさっ子タウンの兼子陽樹副市長と事務局・実行委員の計4名が参加した。

“高知街ラ・ラ・ラ音楽祭”

音楽からなかまづくり、まちづくりへ

9月20日、日曜日。高知市役所近くの駐車場に車を止め、中心市街地に向かって歩き出す。近づくにつれ、四方から演奏する音色が聞こえ始め、なんだか楽しい。見上げると青空が広がり、夏の終わりを感ずる一陣の秋の風が爽やかに、柔らかに吹きぬけ、いやはやなんとも心躍りそうになる。



▲ステージ風景

□楽しくて楽しくて仕方がない

この日は、高知市の中心市街地全体が演奏会場となる「高知街ラ・ラ・ラ音楽祭2015」の開催日。100組を超えるミュージシャンたちが帯屋町を囲むように、9ヶ所の街角に設置された特設ステージで演奏を繰り広げられている。この音楽祭を愛するファンや市民・県民たちは、親しみを以て「ラララ」と呼び、笑顔をみせる。さて、この「ラララ」は、「音楽でまちづくり」を合言葉に2002年に始まった音楽祭だ。今年で14回目を迎える。公募により、アマチュアからプロのミュージシャンたちが参加、演奏を繰り広げる手づくりの音楽祭で、ジャンルは様々、年齢も

様々、バラエティ豊かな音楽の祭典となっている。この日はやはり街全体が音楽一色に染まり、多くの市民県民が集まり、あちこちに賑わいがある。歩いていて楽しくて楽しくて仕方がない。

さてさて、「ラララ」は、個人はもとより企業などから寄せられた寄付金や協賛金のもと、多くのボランティアスタッフや支援者たちによって運営されている。そう、市民、県民、音楽を愛する人たちが、ボランティアスタッフを中心に企画されている手作りのイベントなのだ。

さてさて、この音楽祭の目的も記しておきたい。それはただ一つ。高知県内の音楽愛好家の交流及び発表の場とするのももちろんのことだが、音楽を介して、高知街を中心とする市内中心部に賑わいのきっかけをつくり、まちづくりの賑わいの環をつくっていくことを目的としている。まさしく、「音楽からなかまづくり、そしてまちづくりへ」と連環する熱いイベントとしてみんなに愛されている。



▲記念すべき第1回開催(2002年)パンフレット

□三つの課題

ところで、水を差すようで心苦しかったが、運



▲街角風景

営スタッフに旧知の友がいるので、意地悪な質問をぶつけてみた。「14年も続くこの音楽祭、順風満帆に見えるが、課題や問題点はないのか」と。瞬時に回答が返ってくる。「いや、ある。ざっくりと言うと三つほど」。

まずは、毎年、運営費を捻出するのに四苦八苦している。多くの企業・団体、そして個人から協賛金・寄付金をいただいているが、昨今の社会情勢を反映しているのか、少しずつ額が減っていつている。さらに、支援者も固定化してきており、広がりが見えない。

二つ目は、一番大事なことだが、まだまだ広く市民・県民に周知してもらっていないように思う。日々の運営活動の中で、「ラララ」を知らない市民・県民に多々ぶつかると。14回もやっている運営スタッフ側は、みんな知っているかのように錯覚してしまう。実は認知度がまだまだ低いのではない。

最後に、スタッフの高齢化。熱いオモイを持つスタッフたちに恵まれているのだが、やはり忍び寄る年には勝てない。ここ数年の大きな課題

であり、次世代を担う熱いNEWスタッフたちを求めているのだが、思うように集まらない。高知を代表するイベントの一つとしてこれからも継続的な開催を考えると早急の対策が必要だと考えている。

・・・と、「スタッフの確保」を課題に挙げたが、実は、ここ2年ほどで少しずつ改善の兆しが見えてきている。というのは、運営費の一部を獲得するために「公益信託高知市まちづくりファンド（市民のまちづくり活動を支援するための助成事業）」を活用（平成24年～26年度の3カ年（最長3年連続活用できる））してきたことで、主催者としての目的や課題を再確認することができた。原点に立ち戻り襟を正して取り組んだことによって、新しく参画してくれるスタッフの共感につながり、定着し始めつつあるのだ。うれしい限りである。

□やぶくぱい

筆者が思うに、これまでに参加してくださったミュージシャンたちの環とミュージシャンと市民・県民の連環は、この14年間、じわりじわりと育ち、大切な財産とチカラとなって、まちづくりに大きく寄与しているにちがいない。

さて、今日はこむずかしいことはなし。好きな音やメロディ、そして、みんなの笑顔にふれあいながら、ゆるりとと散策しよう。極上の楽しさと元気を求めて。

(しのみや)



▲素敵な笑顔を見せてくれるボランティアスタッフたち



各ステージ開催風景

地域と共に、 文化の協奏曲を作り上げる

～ NPO法人音の文化振興会のコラボ力 ～

■いつもの施設×音楽

8月のある早朝、南米の音楽が高知市民図書館の中庭に鳴り響いた。訪れた人は文化への興味も生まれたのだろう。図書館員がセレクトした南米文化の本の貸出しも好調だったそうだ。

9月の夕方には聖パウロ教会で、おもしろ楽器のコンサートが開かれた。竹の筒やスプーンが不思議な音を出し、やがてリズムを刻み音楽になる。参加している子ども達の怪訝そうな顔は、たちまち笑顔になった。自分もすぐ演奏者になれると気がついたのだろうか。



▲市民図書館 朝のライブラリーコンサート
「コンドルは飛んでいく」

■おんがくのもり

高知市民図書館、高知県立文学館、NPO法人高知こどもの図書館、高知聖パウロ教会の高知市中心部の4施設と協力し、クラシック、民族音楽、童謡などのコンサートを年間通し13回開催している「おんがくのもり」は、「生活の中に音楽がある環境を」「演奏者に演奏をする機会を」と、音楽文化の地産地消を目指して活動してい

る、NPO法人音の文化振興会の自主事業の一つだ。四季を通じて、こどもたちが身近に色々な音楽に触れ合えると共に協力施設も新しい顧客の開拓につながる、大成功しているコラボ事業といえる。

■多彩なコラボ

実は、音の文化振興会のコラボは、これだけにとどまらない。NPO法人地域福祉サポートあ・とむと行っているライブ事業「土佐市から始まるMUSIC STEP」、重度重複障害者の作業所を営むNPO法人Open Earthでの「ランチコンサート」、NPO法人福祉住環境ネットワークこうちとの「ふくねこらいぶ」、企業とのコラボ「ツタヤおんがくのもり」、環境活動支援センターえこらぼの「ムーンライトコンサート」への協力など、多くの団体とコラボしている。

なぜ、このようにたくさんさんの団体とコラボしているのだろうか。

■点ではなくて、面で行こう

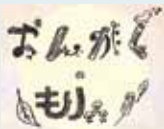
もちろん音楽がコラボしやすいツールだという事もあるだろう。しかし、前述の土佐市でのライブを6年前から続けていく中で地域に文化的土壌が育つ手応えを感じ、会員で想いを共有したのだという。資力、労力、気力も含め、「私たちは弱小NPO。点では大きな成果は生まれな」と。この認識が、今回の高知市文教地区での「おんがくのもり」実現につながっているという。一歩ずつの活動が実を結び、最近、面識のないところからの演奏依頼も多くなってきた。今後

は、これまでのご縁も大切にしながら、音楽を必要としてくれる新たな場所、たとえば医療施設や地域などへ、音楽が生み出す可能性の種を届けていきたいと構想は尽きない。「資金の調達に毎回頭を悩ませます」と北村真実理事長は笑うが、コラボがコラボを呼び、さらに魅力的なプログラムが生まれてきそうだと。

(たまき)



▲楽しい音楽教室／楽団ガッキズカン
「おもしろ楽器の世界」。左端が北村理事長



今後のスケジュール (2015年～2016年)

- 12月13日(日)高知こどもの図書館
クラシック&クリスマス☆ソング
- 1月23日(土)聖パウロ教会(高知市永国寺町)
タップダンスにチャレンジ!(小学生以上)
- 2月14日(日)高知こどもの図書館
あんさんぶる♪たんぼぼ
- 3月26日(土)聖パウロ教会
スタート&ストップ!
音楽を聴いて絵を描こう!(3～12歳)

■ホームページに詳しい情報が記載されています。一部有料のプログラムもあります。演奏依頼も受付中。

www.otonobunka.com

お年寄りに 笑顔と感動を届けて600公演 NPO法人唄と踊りの夢一座

誰もが口ずさんでしまう懐かしのメロディーや、こぶしのきいた哀愁ただよう演歌、はっと息をのむほどの気品と優雅さを兼ね備えた舞踊、それらを織り交ぜた笑いと涙のステージショーを、県内各地の高齢者福祉施設や病院、地域の敬老会等で披露している団体、それがNPO法人唄と踊りの夢一座(座長 秦しのぶ/本名 岡田道代)です。平成14年に活動を開始し、公演回数は今年の9月で600回を超えました。

○多彩な顔ぶれ

年間平均70回の公演をこなし、敬老会の多いこの9月は19回も舞台に立つという一座の面々。5歳から日本舞踊を学び芸事には甘えを許さない秦座長、唄ってしゃべれて笑いも取れる進太郎副座長が、座員である10名程度の歌い手・踊り手等のエンターテナーを引っ張っています。さながら旅の一座を彷彿させます。

座員は週に2回の練習をこなし、衣装やかっからは京都まで買い付けに行き、メイク道具もプロ仕様とするなど、プロ同様の意識で毎回の公演に臨んでいます。もちろん、曲ごとに衣装やカツラ、メイクも変えます。

毎年のように依頼を受ける施設もあります。が、「同じ場所と同じ曲は二度やらないのがポリシー。だから、それぞれ歌や踊りに20〜40のレパートリーがあります。進太郎副座長いわく「これは結構しんどい。精進せないかん」。

○感動を原動力に、芸に励む

「町まで行かんと観れないものを、こんな山奥でやってくれてありがとう」という観客や、「普段はほとんどしゃべらない人が、笑って歌を口ずさんでいたのよ」と驚いて教えてくれる施設の職員さんがいました。手拍子もなくムスツとしていた男性のメガネの奥から、すーっと涙がこぼれていたのを見たこともあります。公演の度に、歓喜に満ちた拍手や嬉しい言葉、感動があります。だから、精進により一層力が入るのです。

「二年後に一座のショーを観るために、また一年頑張りますよ。今日訪問した施設の施設長さんは、そう観客の皆さんに言ってくれたんですよ」と話す秦座長。笑いと元気をもらい、また来年、このステージを観ることを生きがいとして今の時を頑張ることが出来る。一座の公演はそんな力を秘めています。

(あおき)



▲「森の石松」を熱唱する進太郎副座長。
骸骨姿で「骨まで愛して」笑いもパッチリ!



▲ラストは出演者全員で「南国土佐を後にして」。観客も一緒に口ずさんで、会場全体が感動の輪に包まれました。「1000回公演目指して頑張ります!」と宣言。



▲秦座長による舞と「銀座カンカン娘」。
スカートをはひらり、最高の盛り上がりを見せる。

(お問い合わせ、公演依頼など)

NPO法人 唄と踊りの夢一座 088-882-6489 (有限会社ダイワ青陽社内) まで

間違い探し 全部で5っ!



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。
URL:<http://www.kochi-saposen.net>

#編集スタッフの

つぶやき



@岡村

あっという間に秋が来て冬が来て…。暑いのも寒いのも苦手ですが、今年はまだ1度も風邪で予定をキャンセルしていないのでこのまま体調に気をつけて過ごしたいです。



@おおの

最近では身近なところで結婚・出産ラッシュ。おめでたい年になりました(´▽`)さて、私の番はいつになることやら…笑



@岩貞

ミニマルライフとまではいかないが、身の回りを少々すっきりさせよう…。これ不必要?なかなかの勇気ある決断がいるよな～



@のむ

久しぶりに公共交通機関での移動。夏から秋へと移ろう車窓の景色。忙しさの中、普段味わえない一人の時間を楽しんでいる。

発行

高知市市民活動サポートセンター

企画編集

認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : npokochi@siminkaigi.com

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています



@みやわき

ヌーボー解禁! ワインもいいですが、土佐酒も負けていません。清水サバの刺身やブリしゃぶと……妄想がふくらむと、お腹がぐう。



@山崎

長かった就職活動もいよいよ終盤。そろそろ決断しなければなりません。4月の新しい自分を想像しながら、じっくりと、ゆっくりと。



@横田

引っ越しを機会にこたつの処分しようと梱包していると、こたつ好きの愛猫の視線を感じ、思い留まってしまふ。結局作業が進まない。